

いました。

角田で過ごした三日間を振り返って、緑ヶ丘小学校の子ども達からは「私達はこの角田農業体験を通じて、農家の人たちのお米に対する思いを学びました。これからお米を作ってくれる農家のみなさんに感謝して、お米を食べます」と感想をのべました。閉会式では、あぶくま農学校佐藤校長から生徒全員に修了証書が手渡されました。

帰途の際、北郷小学校の五年生と合流して森谷茂さん（北郷）の乾燥調整施設を見学。前日に収穫したお米の乾燥と調整作業の行程の説明を受け、全員に収穫したお米五百グラムがプレゼントされました。



▲前日の収穫作業の様子が印刷されたパッケージにまなむすめ500gが詰められ全員にプレゼントされました。



▲収穫した稲がお米になるまでの行程をJA青年部から説明を受けました。

## 角田養護学校の生徒34名と教師17名が稲刈り作業体験



十月九日、宮城県立角田養護学校（齋藤正樹校長）の中学部生徒三十四名と同校の教師十七名が稲刈り作業を体験しました。

同校の生徒は、JAみやぎ仙南角田地区青年部枝野支部（南部一広支部長）の指導の下、今年五月にひとめぼれ一〇アールを作付け。栽培管理は枝野支部部員で行い、今回収穫を迎えました。

前日の雨で多少ぬかるんではいたものの、生徒達は初めて手にする稲刈り鎌で一株ずつ、丁寧に稲の刈り取り作業を行い、約一時間で二アールほど刈り取りを行いました。

作業の終了後、一生懸命がんばった印に、枝野支部長から農作業修了証書が生徒一人ずつに渡されました。

この田んぼで収穫された米は精米された後、生徒達が持ち帰れるように1キロずつ配布されることになっています。

## 特別会員へ角田の味覚をお届けしました

角田農業のサポーターとして、平成十四年度角田市農業振興公社の特別会員を募集したところ、一〇〇名の方々から応募があり、角田の味覚の詰め合わせを三回に分けてお届けしました。

第一回目は、七月中旬に新鮮野菜の詰め合わせ、第二回目は八月下旬、豊室で栽培された梨（幸水5キロ）。第三回目は、十月十一日に角田産の新米ひとめぼれと納豆、梅干しの「朝ご飯セット」詰め合わせをお届けしました。いずれの生産品発送も、生産者自らが手がけました。

会員から寄せられたアンケートでは、いずれも好評で来年もぜひ会員になりたいとの意見が多数寄せられました。

来年度の特別会員の募集は、三月末ごろから予定しています。現在の特別会員のみなさん、来年度の入会もよろしくお願いします。お知り合いにもぜひ紹介してくださいね。



▲第二回目発送の梨（幸水）。梨の葉を添えてお届けしました



▲第三回目は、新米5kgに角田産大豆の納豆と梅干しの詰め合わせ



▲第1回目はトマトやきゅうり、モロヘイヤ等の新鮮野菜